

## 国立国会図書館関西館（仮称）建設基本計画概要

（平成6年12月19日国立国会図書館建築委員会了承）

### 第1 関西館の基本方針

資料の増加予測に応じた適切な規模の書庫を建設するとともに、高度の情報技術を応用して文献の情報処理を行い、高速かつ簡便にその伝送を行う等の施設として、国立国会図書館に関西施設（以下「関西館」という。）を置くものとする。

### 第2 関西館の基本機能

① 図書館資料の大規模収蔵及び分散保存  
増加する図書館資料を効率的に利用するため、以下の機能に応じて資料を配置し収蔵する。併せて不測の災害に備えて図書館資料を分散して保存する役割を果たす。

② 文献及び文献情報提供センター機能  
文献及び文献に関する情報の伝送及び複製又は貸出による提供を行う。

③ アジア文献情報センター機能  
アジア地域で出版される資料及びアジア関係資料を収集、整備し、アジア情報の国際的な流通に寄与する。

④ 図書館協力  
他において保存を困難とする資料で必要と認められるものを保存し利用に供する共同保存利用業務及び公私立図書館を中心とする総合目録データベースの構築を行う等、全国的な情報資源の効率的な利用を図り、もって国内外の各種図書館の発展に寄与する。

⑤ 図書館・情報関係分野の研究開発及び研修

情報処理、通信、資料保存等の諸技術の図書館・情報関係分野への応用、図書館運営等に係る研究開発を行うとともに、国内

外の各種図書館の職員のための研修又は交流を行う。

### 第3 資料収蔵計画

関西館の収蔵資料は、科学技術資料等、上記の基本機能に応じた資料を中心とする。

### 第4 システム

(1) 東京本館と関西館の間に専用的高速通信回線を確保し、東京本館と関西館一体のシステムを構築する。さらに外部ネットワークとの接続を通じて、情報提供サービスを行う。

(2) システムは、利用者向けの情報提供システム、館内事務用の情報管理・業務管理システム、研究者向けの研究開発システム、対東京本館、対外部機関との通信を管理する通信システムで構成される。

### 第5 敷地及び施設計画

(1) 関西文化学術研究都市の中核に位置する精華・西木津地区内(京都府相楽郡精華町)に、最終的な目標規模として、敷地面積約82,500㎡及び建築延べ床面積約165,000㎡を計画する。

(2) 具体的な用地確保及び施設整備は、書庫の収蔵能力等を勘案しながら、段階的に進めることとする。差し当たり第1期として、敷地面積約37,500㎡を確保し、建築延べ床面積約60,000㎡の建物を建設する。その完成時期は、現有書庫の収蔵力にかんがみて、平成14～15年ごろ(西暦2000年代初頭)を目標とする。

(3) 部門別面積は、次のとおりとする。

|                       |          |
|-----------------------|----------|
| 書庫部門                  | 34,328 ㎡ |
| サービス部門<br>(閲覧スペースを含む) | 10,121 ㎡ |
| 事務部門                  | 15,022 ㎡ |
| 合計                    | 59,471 ㎡ |

### 第6 運営計画

(1) 東京本館及び関西館の両者があいまって、

国立国会図書館としての基本的機能を果たすよう運用するものとする。

(2) 資料の収集、データベースの作成等の図書館の基盤的業務を除く、出納、複写等の作業、システム管理及びビル管理の業務並びに代行検索等のサービス提供に関わる業務等については、委託、外注、共同、支援等によるものとする。

#### 第7 経費概算

|             |               |
|-------------|---------------|
| (1) 建設工事費   | 36,307,488 千円 |
| イ 建築工事      | 22,683,034 千円 |
| ロ 設備工事      | 13,624,454 千円 |
| (2) 設計競技関係費 | 264,520 千円    |
| (3) 設計料     | 764,104 千円    |
| (4) 工事監理料   | 273,541 千円    |
| 合 計         | 37,609,653 千円 |